

第6回 近江地域再生フォーラム（近江地域活性研究会中間報告会）

# コミュニティの将来像を考える



びわこ  
大縁日 2010  
関連企画

日時：平成22年12月12日（日）10:00～12:30  
場所：滋賀県立琵琶湖博物館 ホール 滋賀県草津市下物町1091

**基調講演** 「いま、なぜコミュニティなのか」 講師 岩崎恭典氏（四日市大学教授）

## 事例報告

「長浜市田根地区における地域活動」（「地縁+（部外者）」）

発表者：中嶋利明氏（長浜市田根地区・地域づくり協議会）

「彦根市芹川地域でのNPOや地縁団体が連携した地域活性化」（「地縁+志縁」）

発表者：辻橋正一氏（NPO 芹川）

「草津市における多様な主体による環境まちづくり」（「地縁+志縁+企業+（行政）」）

発表者：相井義博氏（草津市役所）



岩崎恭典氏



嘉田由紀子氏

**コメント・対談** 嘉田由紀子氏（滋賀県知事）

定員150名 参加無料

申込み・問い合わせ 滋賀県立大学地域づくり教育研究センター

①氏名 ②住所 ③電話番号 ④FAX番号又はメールアドレス ⑤所属をご記入の上、下記宛お申込み下さい

電話 0749-28-8612 Fax 0749-28-8567 メール [chiiki@office.usp.ac.jp](mailto:chiiki@office.usp.ac.jp)

ホームページでも受け付けています。 <http://ohmikanjin.net>

主催：滋賀県立大学・近江環人地域再生学座・近江地域活性研究会

# コミュニティの将来像を考える

時代の転換点で地域コミュニティも過渡期を迎え、地域を担う主体が多様化し、地域そのもののあり方も変容しつつあるいま、山・里・湖の近江の地域コミュニティの課題、可能性を改めて見つめ直します。

## 【岩崎恭典（いわさき・やすのり）氏プロフィール】



四日市大学総合政策学部教授。京都府宇治市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒、早稲田大学大学院政治学研究科自治行政専修博士課程前期修了。（財）地方行政システム研究所を経て、中央学院大学法学部で地方自治論／公務員制度論を講じる。2001年より現職。

### 【研究内容】

専門分野は「総合政策学、行政学、地方自治論」。研究テーマは多数。今後の自治体は、セーフティネットの維持に全力を傾注し、そのためには、これまで引き受けてきた仕事は「民にお返し」する必要がある。その際の住民側の「受け皿」のあり方、合意形成・参加の手法等について、いわば、「小さな自治」はどうすれば実現可能なのか、理論だけではなく、実践するなかで、検討をすすめている。

【滋賀県との関わり】 東近江市行政改革推進委員会の委員（補助金部会座長）、米原市行財政改革市民会議の委員（座長）

## 【事例報告の内容】

### ◆「田根地区における地域活動」（『地縁＋（部外者）』）

発表者：中嶋利明（長浜市田根地区・地域づくり協議会）

田根地区では、平成19年から慶應義塾大学やマサチューセッツ工科大学との協働で地域課題の調査研究を行ってきた。その結果、地域内にデイサービスセンター「さくら番場」が開設され、地域福祉の拠点が出来た。こういった、課題解決に向けた大学などとの地域外の人との協働のあり方について報告。

### ◆「芹川地域でのNPOや地縁団体が連携した地域活性化」（『地縁＋志縁』）

発表者：辻橋正一（NPO 芹川）

自治会による清掃活動の後退をカバーするために立ち上げた「芹川を美しくする会」を平成17年にNPO 芹川として法人化。現在は、美化活動に加え、地域での子育て、子どもの遊び場づくり、狂言の上演、彦根屏風のPRなど、幅広い地域活性化に取り組んでいるところであり、これらの活動について報告。

### ◆「草津市における多様な主体による環境まちづくり」（『地縁＋志縁＋企業＋（行政）』）

発表者：相井義博（草津市役所環境課）

草津市では「愛する地球のために約束する草津市条例」を制定し、平成20年4月から施行。地球温暖化防止の諸活動にNPOや地域団体のみならず企業が積極的に関わっている点の特徴で、企業市民としての新しい可能性を見出すことができる。企業のインセンティブをどうくすぐり、地域づくりの一員として、関わってもらえるのか。都市部ならではの取り組みについて報告。

## 近江地域活性研究会とは

社会経済状況が一層厳しさを増し、また、環境問題が世界的な課題になる中で、滋賀が有する豊かな自然・歴史・文化や資源などの地域特性を活かした地域活性のあり方を明らかにするとともに、その推進に資する調査研究に取り組み、これからの滋賀の持続的な発展に寄与することを目的として、大学、行政、民間からメンバーが集まって平成22年5月に研究会を立ち上げました。「地域活性化」とは何かといった理念的な課題と、テーマや地域をしぼった具体的な課題を交互に取り上げ、これまでに7回開催してきました（各回のテーマは右参照。3回目は課題整理）。

当研究会では、これらの取り組みを通じて、理念的な課題と具体的な課題をつなぐものとして、滋賀県独自の「幸福の物差し」を近江の地から発信できないかといったことも議論しています。

今回の中間成果発表会では、基調講演では理念的な話を、事例報告では研究会のメンバー等による各地域での具体的な取り組みについて発表してもらった上で、近江の地域コミュニティの課題、可能性を改めて見つめ直します。

### 【理念的な課題】

- ・『事例紹介新潟市都市政策研究所報告書「田園都市をめざして」』報告者：阪口博司（第1回）
- ・『フィンランドにおける福祉・環境施策について』報告者：木村正裕（第5回）
- ・『“在所”から問う幸福論—近江の目盛りをいかに刻むか』報告者：上田洋平（第6回）

### 【即地的・具体的な課題】

- ・『都市との移住・交流を通じた地域づくり～湖北地域を中心とした事例報告～』報告者：近藤紀章（第2回）
- ・『都市との移住・交流を通じた地域づくり～梶誠さんが語る集落に暮らす足助のとりくみ～』報告者：梶誠・押谷茂敏（第4回）
- ・『郷祭りの変化に伴うコミュニティの変遷過程～五箇祭と建部祭の比較から～』報告者：平井賢治（第7回）